

令和8年8月5日

熊本大学学生 各位

熊本大学
理事・副学長（教育・学生支援担当）
水 元 豊 文

災害時のボランティア活動に参加する皆様へ

令和8年熊本地震の被災地支援等のボランティア活動に参加される場合、下記の事項に留意して参加するようにお願いします。

記

1. ボランティア活動に関わる保険

- ① 社会福祉協議会のボランティア活動保険 (<https://www.saigaivc.com/insurance/>)
- ② スポーツ安全保険 (<https://www.sportsanzen.org/hoken/index.html>)
- ③ 学研災付帯学生生活総合保険（以下、付帯学総）（注）
(<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakuseikatsu/fukurikousei/hoken>)
- ④ 大学生協の学生総合共済 (<https://kyosai.univcoop.or.jp/start/index.html>)

等のいずれかに必ず加入していること。

※注：学生教育研究災害傷害保険（以下、学研災）及び学研災付帯賠償責任保険（以下、付帯賠償）については、補償の対象外です。学研災に加入している方が対象の付帯学総に加入している場合が補償の対象となります。加入状況については、SOSEKI で確認してください。

- 2. 水や食料をはじめ防災グッズの準備をすること。また、被災地域の情報は自分自身で収集すること。
- 3. 現地の防犯への協力のため、ボランティアの目印となる名札や腕章を身に着けること。
- 4. 受入機関の指示に従うこと。性暴力など被災地で起こりがちな危険な問題に巻き込まれないよう安全に活動するためにも単独行動は避けること。
- 5. 通常の良いマナーを守ること。SNS への掲載や被災の状況を聞きだすなど、被災された方々のプライバシーに関わる行為は絶対にしないこと。
- 6. 自分自身の体調は自分でしっかり管理すること。疲労から体調を崩すのはかえって迷惑になるため、たとえ活動中であっても、疲労を感じた場合は休む判断をすること。
- 7. 被災者の話を聞くことで感情が揺さぶられ、自分の心をコントロールできない時はその場から離れ、活動をやめること。
- 8. 全国社会福祉協議会の「災害ボランティアをお考えの方へ」を読み、災害ボランティアについて理解すること。 (<https://www.shakyo.or.jp/bunya/saigai/bora.html>)
- 9. 災害ボランティアに参加する場合は、必ず現地のボランティアセンターで登録を行い、コーディネーターの指示に従うこと。

<本件担当>
学生支援部学生生活課

被災地での活動の登録

- 登録は、現地の「災害ボランティアセンター」へ行きましょう。
- コーディネーターがかならずいますので、指示に従ってください。
- 被災地に行く「前」に、現地の注意事項の情報を得ましょう。状況が厳しそうであれば、参加をやめるのも必要です。
- 活動は組織的に行い、単独行動はしないようにしましょう。トイレに行くときでも、仲間に行き先を伝えましょう。



ボランティア活動の現場判断

ただしのはどれ？

1. 被災地の様子は現場に行かないとわからないので、現地で収集する。
2. 状況によっては、参加を断念する。
3. ボランティアに参加できる時間は限られているので、無理をしてでも作業量をこなす。

事前に現地の情報収集をして、自分が参加できるような状態かどうか知りましょう。無理な活動は迷惑をかけるだけです。できることをできる範囲でするのがボランティア。現場で疲れたら、しっかり休むことも忘れずに。



ボランティア活動中の行動

ただしのはどれ？

1. 常に足元の安全などを確認する習慣を身につける。
2. 玄関先の犬などには、手を出したりして動物とのコミュニケーションも大切にする。
3. ヒヤリとしたこと、ハッとしたことはメンバー内で共有する。

特に被災地の活動では、足元は危険です。スニーカーなどではなく、その分厚い作業靴を履きましょう。

自分がヒヤリとしたことは、仲間に共有しておきましょう。同じ状況になりかねないからです。



熱中症予防のために効果的なもの

- 塩あめ
- 梅干し
- スポーツドリンク
- 経口補水液
- 定期的な休憩（日陰、涼しいところで）
- 帽子



めまい、けいれん、吐き気は要注意！
屋内でも熱中症になります！
命を落とすこともあることを忘れずに！！！！

自分だけでなく、仲間同士で確認しましょう。

活動の情報はいつ収集すべき

ただしいのはどれ？

1. 現地に行く前
2. 現地に行きながら
3. 現地に到着してから

現地の情報や活動内容は、事前に調べておくのが鉄則です。「現場に行かないと分からない」では怪我をします。自分にできる作業なのか、を判断するためにも情報収集は前もってやりましょう。

【確認しましょう】

- ボランティアに行くのか、いかないのか。
- ボランティア活動は、本人の自発的な意思と責任により行動することが基本です。食べ物、装備品は全て自分で準備しましょう。

ボランティア活動に参加する準備

- 家族の理解を得ましょう。（きちんと説明をしましょう）
- 自分の食べ物や飲み物、（被災地の場合は）寝具などは自分で持っていきましょう。それができない場合は、参加をやめましょう。
- 事前に（ボランティア）保険に加入しましょう。災害ボランティアの場合、被災地のボランティアセンターで「ただで」加入することもできます。しかし、そのお金は被災自治体が負担するということを忘れないように。被災したうえにボランティアの保険まで支払わなければならないのです。

活動先に負担をかけない配慮が必要です

ボランティア活動中の行動

- 被災地での活動の場合は、被災された方の気持ちやプライバシーに配慮し、マナーある行動と言葉づかいで活動に参加する。
- 「がれき」に見えるものでも「ごみ」ではない。捨てるものはあらかじめ確認、迷ったら再度確認を。
- 活動先や相手の写真など、むやみに撮影しないように。
- 活動の写真など、断りなしに撮影をしたり、SNSで発信しない。
- 活動内容に応じた服装を。被災地に行くときと、高齢者施設で活動をするときとでは服装も異なりますよね。状況に応じた対応を。

